

# 令和4年度池田市上下水道事業 決算レポート

## 令和4年度の取組をお知らせします

池田市上下水道部では、池田市上下水道事業のめざすべき姿として「池田市上下水道ビジョン」を策定し、「A・Q・U・A Rise-美しい水を未来へ-」を基本理念として、事業を進めています。（詳しくは「池田市上下水道ビジョン」のホームページをご覧ください。）

水道事業は、猪名川と余野川を主な水源として、古江浄水場で飲めるまでキレイにした水を、ご家庭・学校・工場などに送る仕事をしています。

下水道事業は、ご家庭・学校・工場などで使った後の水や雨水を、まちから流し、下水処理場できれいにした水を猪名川に戻す仕事をしています。



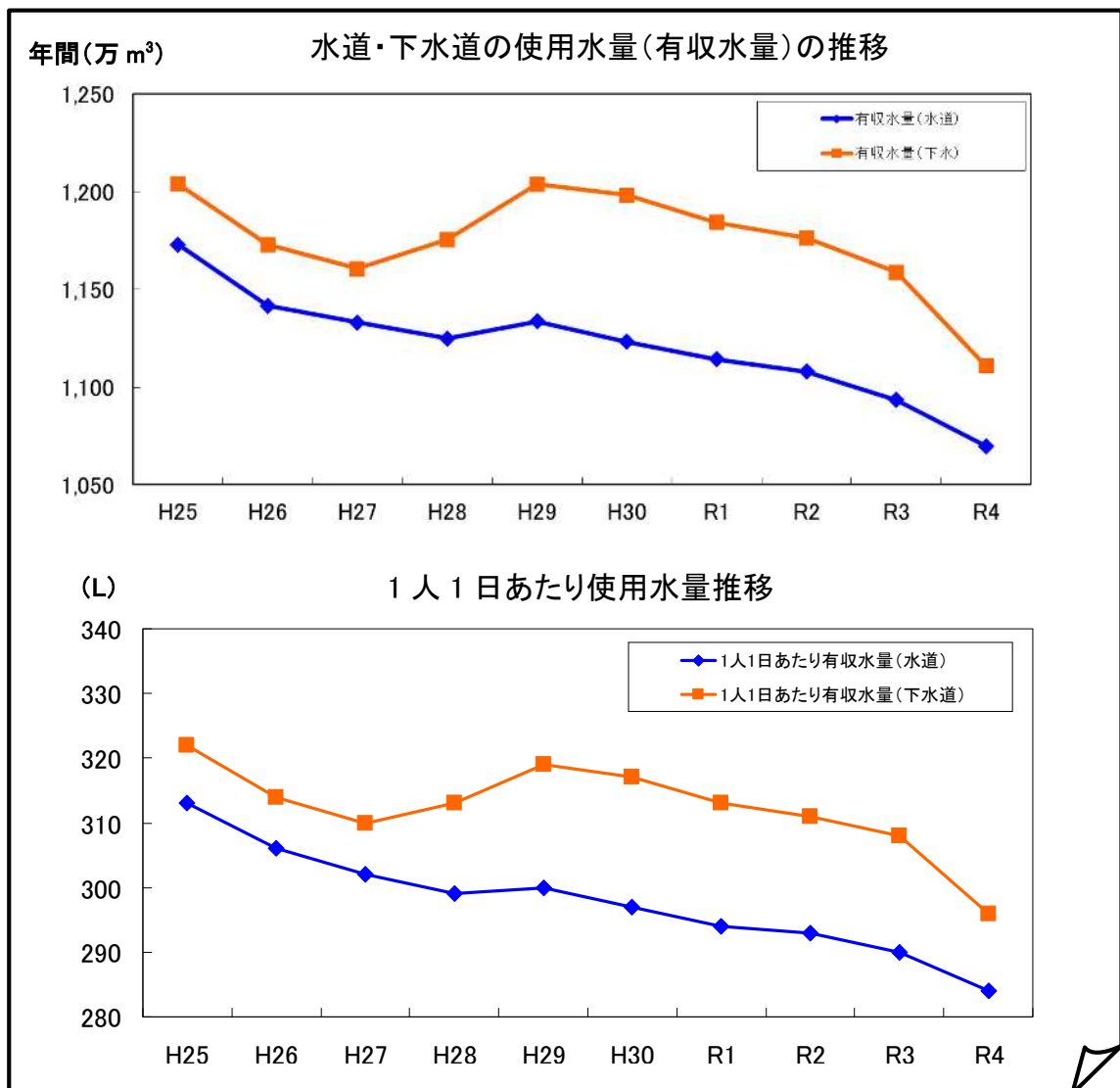
池田市上下水道部の仕事に必要なお金は、みなさまからいただいている水道料金や下水道使用料で主にまかなわれています。そのため、水道料金・下水道使用料の使い道や、みなさまの財産である上下水道施設の整備状況などについて、令和4年度の主な取組をお知らせします。

# 1. 上下水道事業をとりまく状況

## 【使用水量(水需要)】

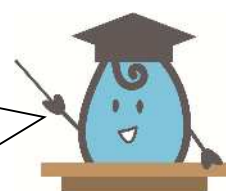
近年、節水型機器の普及や大口使用者の使用水量が減少したことなどが要因で、水道の使用水量は減少傾向となっています。

下水道の使用水量も減少傾向でしたが、平成27年度から平成29年度にかけて増加しました。これは、大口使用者の使用量が増加したことが要因ですが、平成30年度以降は再度減少に転じています。



市民のみなさんや工場、事業者の方が使う水量は年々減ってきているんだね。

使用水量は、節水型機器の普及の他に、家族形態(単身世帯や3世代世帯など)の変化や景気などにも大きく左右されるんだ。

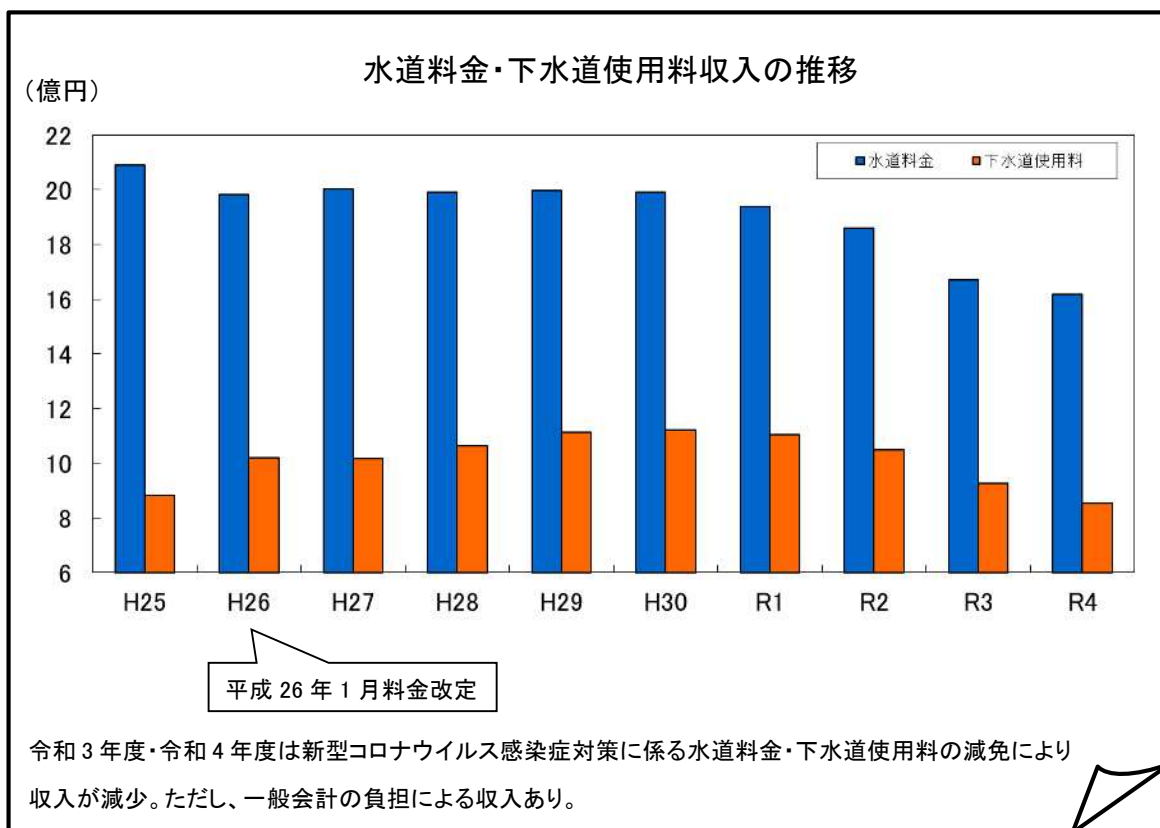


### 【水道料金・下水道使用料収入】

池田市では、平成26年1月に水道料金で平均改定率△1.45%、下水道使用料で平均改定率20.5%の料金改定を実施しました。

水道料金収入は、使用水量の減少に伴い減少傾向となっています。下水道使用料収入は、平成29年度をピークに減少に転じています。また、料金単価の高い大口使用者の使用水量が減少し、それぞれの収入は大きく減少しました。

上下水道事業は、使用者のみなさまからいただく水道料金・下水道使用料を、水道水をつくりみなさまにお届けする・下水をきれいにして川に戻す際に必要となる経費に充てる独立採算で事業を運営しています。水道料金・下水道使用料収入の減少は、事業運営に大きな影響を与えます。



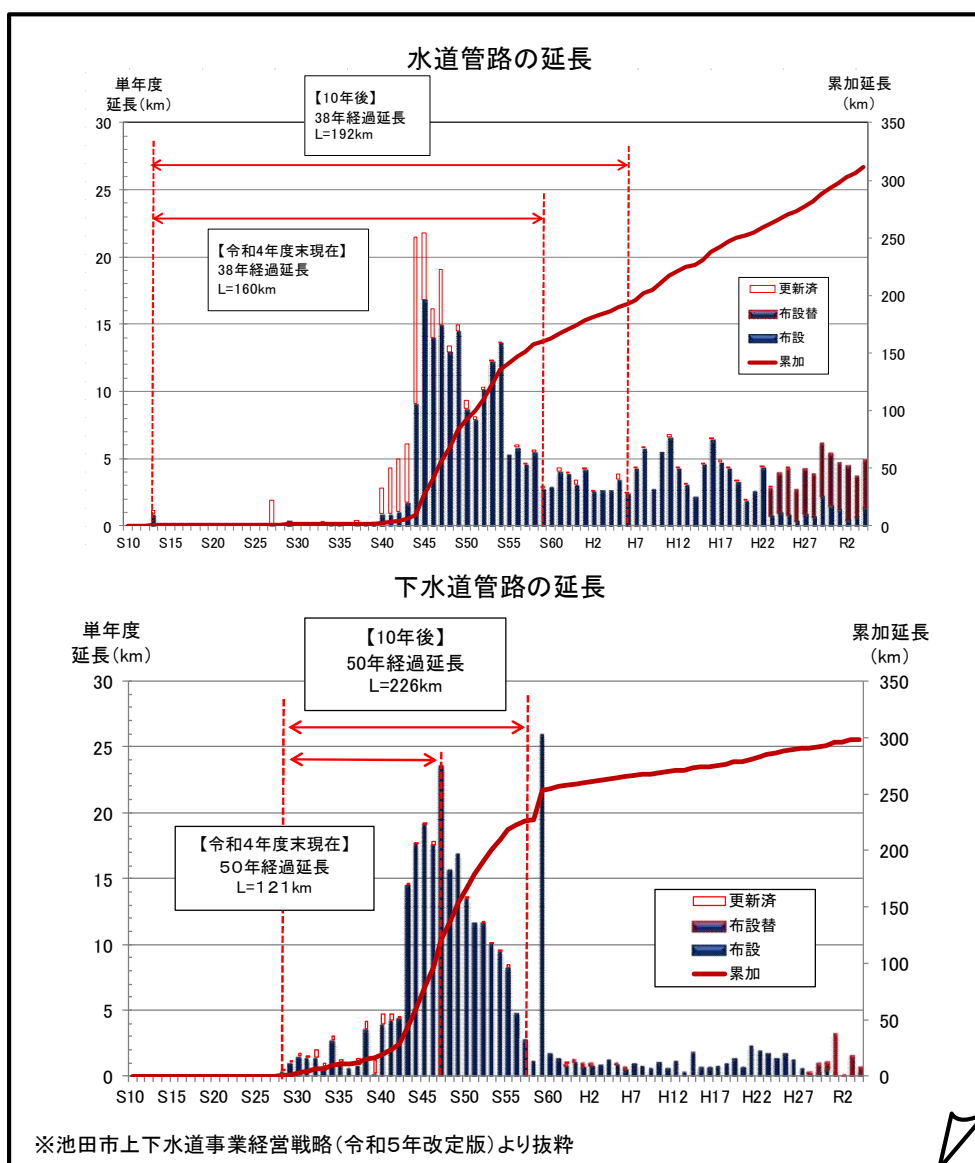
上下水道事業の本業から得られる「水道料金・下水道使用料」が減少していることがわかるね。



## 【施設の更新見通し】

水道事業では、平成23年度から令和4年度にかけて「上水道施設整備計画」に基づき事業を進めてきました。今後は、「第2次上水道施設整備計画」に基づき、令和5年度から令和14年度にかけて、危機管理体制の充実及び既存施設の更新を主体として事業を進めていきます。

下水道事業では、法定耐用年数を迎えた管路や池田市下水処理場の水処理施設の更新、耐震化及び雨水整備を同時に進めていくため、今後の事業費の大幅な増加が見込まれます。（詳しくは「池田市上下水道事業経営戦略」のホームページをご覧ください。）



水道料金・下水道使用料の収入が減少する中で、施設の更新・耐震化の時代を迎えているんだね。お金のやりくりが大変そう。



## 【上水道施設整備事業の竣工】

上水道施設整備計画は、平成22年度に池田市総合計画との整合、水需要の動向、適正な事業規模等を考慮し、総事業費90億円として計画策定を行いました(計画期間平成23年度～令和4年度)。浄水場や水道管の老朽化した施設の更新を進める中、南海トラフ地震等の巨大地震における被害軽減のための各施設の耐震化や労務費上昇により計画変更を2度行い、最終計画事業費を114億円としました。上下水道施設整備事業は、総事業費101億2500万円として令和4年度に竣工しました。



古江浄水場の耐震工事



地震対策が完了した畑配水池

## 上水道施設整備事業の概要

	事業費	工事内容	関連する主な業務指標の変化 (平成22年度→令和4年度)
取水施設	1億4,955万円	余野川取水設備更新	自己保有水源率 84.0%→84.0%(→)
浄水場施設	35億7,720万円	沈澱池界面計更新 電気機械更新 1・2系ろ過池更新 1・2系耐震 主ゲート更新 次亜塩貯留槽更新 取水・送水管更生 排水処理場機械電気	浄水施設の耐震化率 0%→83.1%(↑)
送水施設	5億8,292万円	東畑ポンプ場等電気機械更新 伏尾台配水場電気機械更新 企業団遠方監視制御設備 伏尾台配水場耐震 畑配水池地震対策	配水池の耐震化率 56.3%→100%(↑)
送水管	3億9,797万円	φ300～400mm 2,317m更新	有収率 90.48%→95.68%(↑) 管路の耐震管率 1.2%→17.3%(↑)
配水管	46億9,735万円	φ75～400mm 38,796m更新 自動水質監視設備設置	
事務費	7億2,001万円		
合計	101億2,500万円		

## 2. 令和4年度 事業会計決算

決算状況を資金状況とともにお知らせします。(表記は全て税抜きです。)

水道事業・下水道事業にはそれぞれ3つの財布があります。

### 【1つ目の財布 収益的収支】

水道水をつくりみなさまにお届けする・下水をきれいにして川に戻す際に必要な経費と、みなさまからいただいた水道料金・下水道使用料収入を管理するための財布で「収益的収支」と呼ばれています。収入は①水道料金・下水道使用料、④長期前受金戻入、⑤一般会計繰入金、支出は②水道水をつくる費用・汚水雨水を処理する費用・施設の維持管理をするための費用、③減価償却費、借入金利息から主に構成されています。

### 【2つ目の財布 資本的収支】

水道水をつくる浄水場・水道水の通り道である配水池・水道管・下水の通り道である下水道管・下水をきれいにする下水処理場・大雨からまちを守る雨水施設などを建設したり、更新したりするための財布で「資本的収支」と呼ばれています。収入は借入金、国などからの補助金、⑥工事負担金、支出は⑦施設を建設・更新・耐震化するための費用、借入元金返済から主に構成されています。

### 【3つ目の財布 内部留保資金】

収益的収支の財布の収支の差額や減価償却費などを貯めている財布で、「内部留保資金」と呼ばれています。この「内部留保資金」を使って、資本的収支の財布の収支不足額を穴埋めします。施設の建設・更新等は、外部資金(2つめの財布である資本的収入)と自己資金(内部留保資金)を使って行っています。

#### 用語の解説

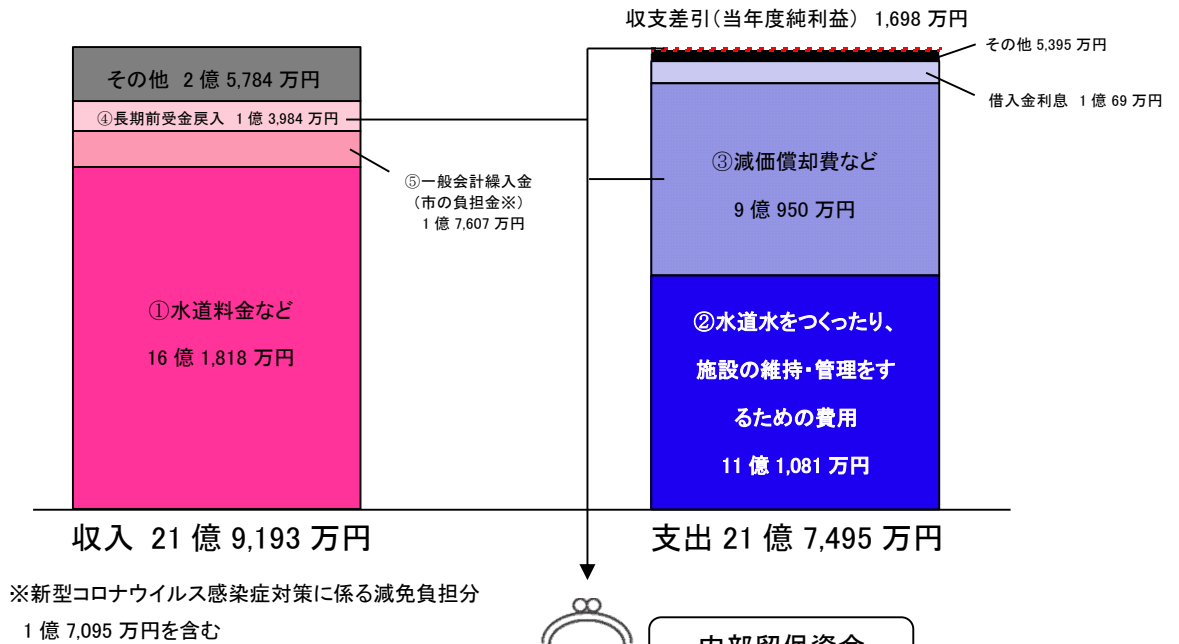
用語	解説
①水道料金・下水道使用料	池田市の水道・下水道の使用量に応じてみなさまからいただくお金。
②水道水をつくる費用・汚水雨水を処理する費用・施設の維持管理をするための費用	施設の修理費用、電気代や薬品代、水道メーターの検針や水道料金徴収にかかる費用、職員の給与費などのこと。
③減価償却費	施設を使用することで1年間に減る価値の額。実際のお金の支払いがないことから、内部留保資金となる(長期前受金戻入を除く)。
④長期前受金戻入	減価償却費のうち国からもらった補助金等のこと。
⑤一般会計繰入金	雨水を処理する費用などをまかなうために、池田市が一般会計(税金)で負担するお金。
⑥工事負担金	施設をつくることによって利益を受ける方からもらうお金。
⑦施設を建設・更新・耐震化するための費用	新しい施設の建設や古くなった施設の更新、地震に備えて耐震化を行うための費用。

## 水道事業



### 収益的収支

#### ●水道水をつくりみなさまにお届けするためにかかった費用とその財源

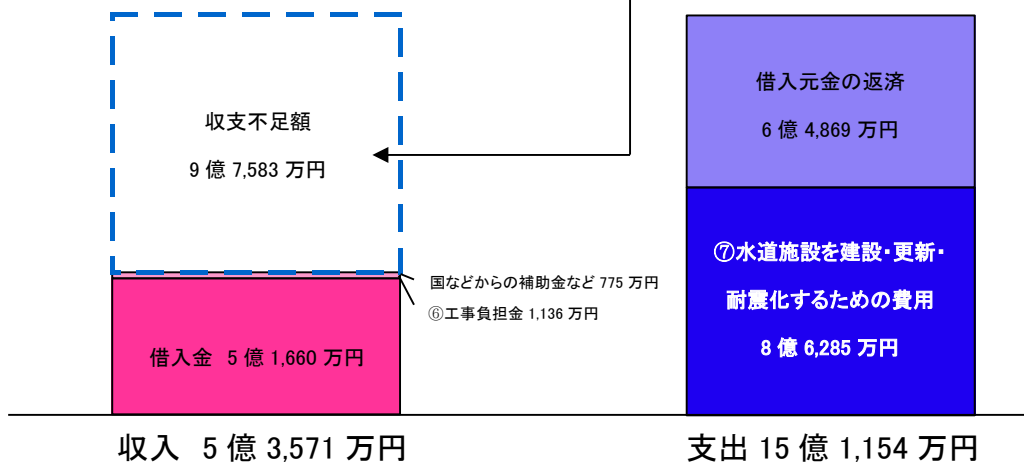


### 内部留保資金



### 資本的収支

#### ●施設を建設、更新するための支出とその財源

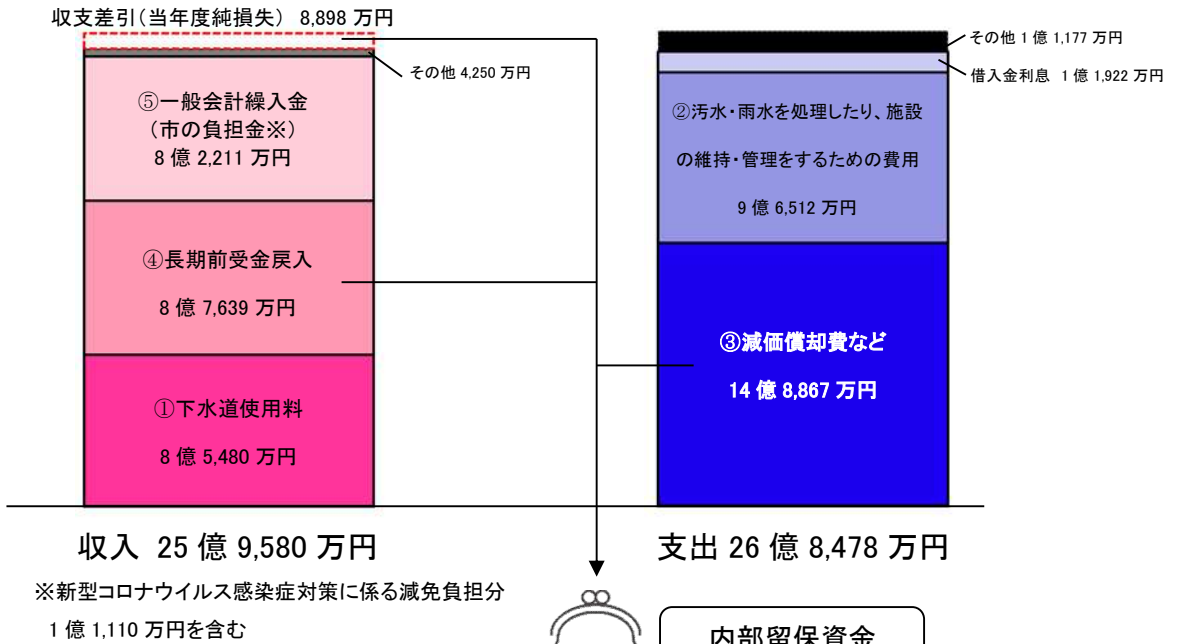


## 下水道事業



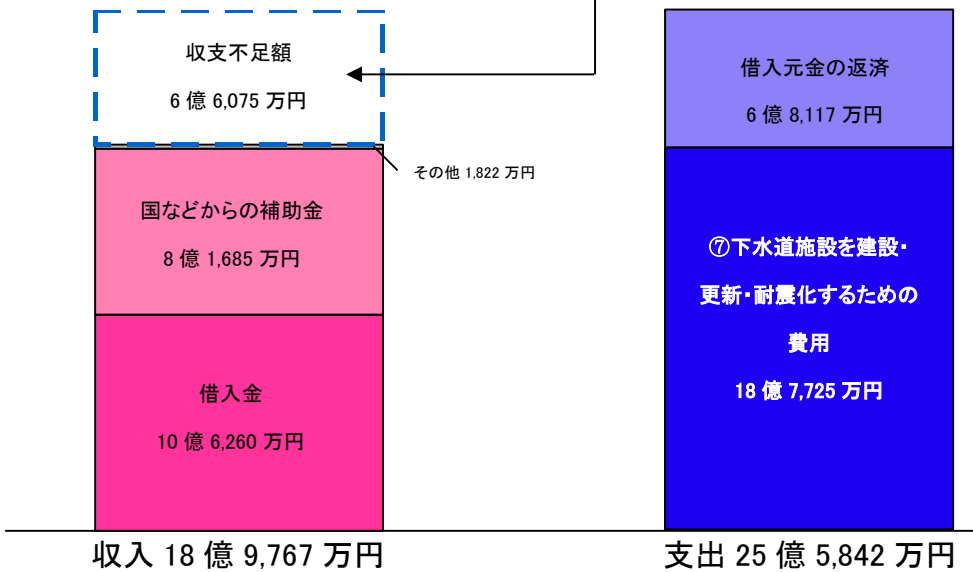
### 収益的収支

#### ● 下水をきれいにして川に戻すためにかけた費用とその財源



### 資本的収支

#### ● 施設を建設、更新するための支出とその財源





### 3. 令和4年度 上下水道事業の進捗状況

池田市上下水道部では、施設の整備状況、更新の進捗度や経営状況などについて客観的に評価を実施するため、業務指標の算出を行っています。水道事業については、(公社)日本水道協会による「水道事業ガイドライン」、下水道事業については、(公社)日本下水道協会による「下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン」に基づいて行っています。

(解説) 上下水道事業の進捗状況の見方



# 令和4年度池田市上下水道事業決算レポート掲載 業務指標一覧

池田市水道 業務指標 (水道事業ガイドライン (JWWA Q 100:2016) による)										
池田市上下水道ビジョン基本目標	指標名	定義(式)	単位	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	傾向	解説
【安定】いつでも安定した水循環を提供するために	自己保有水源率	$\frac{\text{自己保有水源水量/全水取水量}}{100}$	%	84.0	84.0	84.0	84.0	84.0	→	水源運用の自由度を表す指標。
	漏水率	$\frac{\text{年間漏水量/年間配水量}}{100}$	%	3.6	2.4	2.3	1.6	1.9	↓	漏水は浄水の損失だけでなく、エネルギー損失、給水不良、道路陥没などの事故にも繋がる。
	給水人口一人当たり平均断水・濁水時間	$\frac{\text{断水・濁水時間} \times \text{断水・濁水区域給水人口}}{\text{現在給水人口}}$	時間	0	0	0	0	0	→	給水の安定性を表す指標。
	管路の更新率	$\frac{\text{更新された管路延長/管路延長}}{100}$	%	1.37	1.12	1.24	0.95	1.30	↑	信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す指標。
【安心】健全な水循環を保つために	管路の耐震管率	$\frac{\text{耐震管路延長/管路延長}}{100}$	%	11.7	13.1	14.5	15.7	17.3	↑	地震災害に対する水道管路網の信頼性・安定性を表す指標。
	有機物(TOC)濃度水質基準比率	$\frac{\text{max}(\text{23給水栓の有機物(TOC)濃度/給水栓数})}{\text{水質基準値} \times 100}$	%	33.3	30.0	30.0	30.0	33.3	↑	異臭・異味、水のおいしさ、トリハロメタンの生成等と関係が深く、水道水の安全性を示す指標。
【持続】強固な運営基盤を維持するために	給水栓水質検査(毎日)箇所密度	$\frac{\text{給水栓水質検査(毎日)採水箇所数/現在給水人口}}{100}$	箇所/100人	67.0	67.0	67.0	67.0	59.5	↓	毎日検査では、色・濁り、及び塩素の残留効果を確認することが水道法で定められている。水質管理水準を表す指標。
	法定耐用年数超過設備率	$\frac{\text{法定耐用年数を超えている機械・電気・計装設備などの合計数}}{\text{総数} \times 100}$	%	25.6	27.1	27.1	27.1	27.1	↑	機器の老朽度、更新の進捗状況を示す指標。
	管路の更新率	$\frac{\text{更新された管路延長/管路延長}}{100}$	%	1.37	1.12	1.24	0.95	1.30	↑	信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す指標。
	管路の耐震管率	$\frac{\text{耐震管路延長/管路延長}}{100}$	%	11.7	13.1	14.5	15.7	17.3	↑	地震災害に対する水道管路網の信頼性・安定性を表す指標。
	経常収支比率	$\frac{\text{[(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)]} \times 100}{100}$	%	118.0	118.4	105.2	105.7	100.8	↓	水道事業の収益性を表す指標。値が高いほど経常利益率が高く、100%未満で経常損失を生じていることを示す。
	水道施設見学者割合	$\frac{\text{見学者数}}{\text{現在給水人口} / 1,000}$	人/1,000人	10.7	10.1	0	0	0	↓	お客様との双方向コミュニケーション推進度合いを表す指標。
【環境】環境にやさしい水づくり・水処理のために	広報誌による情報提供度	$\frac{\text{広報誌などの配布部数}}{\text{給水件数}}$	部/件	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	↓	お客様への事業内公開度合いを表す指標。
	配水量1m <sup>3</sup> 当たり電力消費量	$\frac{\text{電力使用量の合計}}{\text{年間配水量}}$	kWh/m <sup>3</sup>	0.66	0.58	0.57	0.57	0.56	↓	省エネルギー対策への取組み度合いを表す指標。
	配水量1m <sup>3</sup> 当たり二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量	$\frac{\text{二酸化炭素(CO}_2\text{)排出量}}{\text{年間配水量}} \times 106$	g-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	337	252	195	206	170	↓	環境保全への取組み度合いを表す指標。
【環境】環境にやさしい水づくり・水処理のために	浄水発生土の有効利用率	$\frac{\text{有効利用土量}}{\text{浄水発生土量}} \times 100$	%	0	0	0	0	74.6	↑	環境保全への取組み度合いを表す指標。

池田市下水道 業務指標 (下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン (2007年度版) 等による)										
池田市上下水道ビジョン基本目標	指標名	定義(式)	単位	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	傾向	解説
【安定】いつでも安定した水循環を提供するために	管渠の改善率	$\frac{\text{改善(更新・改良・修繕)管渠延長}}{\text{下水道維持管理延長}}$	%	0.07	0.53	0.05	0.37	0.16	↓	信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す指標。
	管路耐震化率	$\frac{\text{耐震化した管路延長/耐震化が必要な管路延長}}$	%	1.55	4.19	4.19	5.07	10.23	↑	耐震化が必要な管路(56km)のうち、耐震化された割合を示す。 ※池田市独自目標。
【安心】健全な水循環を保つために	法定水質基準遵守率(BOD)	$\frac{\text{法定水質基準遵守回数(BOD)/法定水質調査回数(BOD)}}{100}$	%	100	100	100	100	100	→	常に100%が求められるBOD(生物化学的酸素要求量)の法定水質基準: 20mg/L
	法定水質基準遵守率(SS)	$\frac{\text{法定水質基準遵守回数(SS)/法定水質調査回数(SS)}}{100}$	%	100	100	100	100	100	→	常に100%が求められるSS(浮遊物質量)の法定水質基準: 70mg/L
	法定水質基準遵守率(T-N)	$\frac{\text{法定水質基準遵守回数(T-N)/法定水質調査回数(T-N)}}{100}$	%	100	100	100	100	100	→	常に100%が求められるT-N(全窒素)の法定水質基準: 60mg/L
	法定水質基準遵守率(T-P)	$\frac{\text{法定水質基準遵守回数(T-P)/法定水質調査回数(T-P)}}{100}$	%	100	100	100	100	100	→	常に100%が求められるT-P(全リン)の法定水質基準: 8mg/L
	法定水質基準遵守率(大腸菌群数)	$\frac{\text{法定水質基準遵守回数(大腸菌群数)/法定水質調査回数(大腸菌群数)}}{100}$	%	100	100	100	100	100	→	常に100%が求められる大腸菌群数の法定水質基準: 3000個/mL
	雨水排水整備率(流域・特環含む)	$\frac{\text{整備済流域/雨水計画面積(流域関連、特環含む)}}{100}$	%	39.9	40.0	40.0	40.1	40.1	↑	大きいほど降雨に対して安全となる。
	下水排除基準に対する適合率(事業場排水)	$\frac{\text{適合件数}}{\text{採水件数}}$	%	92.45	92.86	81.05	89.36	86.96	↓	事業場への適切な指導、監督により高率になる。
【持続】強固な運営基盤を維持するために	床上還水対策施設整備率	$\frac{\text{既工した施設/計画している施設数}}{100}$	%	0	0	0	20	60	↑	池田市現理区下水道排水管理統括総合計画及び池田市神田・旭東地区下水道上還水対策計画で計画されている床上還水対策施設のつち、完成した割合を示す。 ※池田市独自目標。
	管渠の改善率	$\frac{\text{改善(更新・改良・修繕)管渠延長}}{\text{下水道維持管理延長}}$	%	0.07	0.53	0.05	0.37	0.16	↓	信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す指標。
	主要設備の経年化率	$\frac{\text{主要設備の経過年数の総計/主要設備の標準的耐用年数の総計}}{100}$	%	104.3	116.2	120.0	124.7	113.1	↓	主要設備は、電気設備、機械設備等とする。過度の経下は設備更新の急務を要し、経路上の調整を必要とする。
	経常収支比率	$\frac{\text{[(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)]} \times 100}{100}$	%	105.8	104.9	103.7	102.8	99.5	↓	企業会計では、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、100%未満であれば経常損失が生じていることを意味する。
	管路耐震化率	$\frac{\text{耐震化した管路延長/耐震化が必要な管路延長}}$	%	1.55	4.19	4.19	5.07	10.23	↑	耐震化が必要な管路(56km)のうち、耐震化された割合を示す。 ※池田市独自目標。
【環境】環境にやさしい水づくり・水処理のために	処理場見学者割合	$\frac{\text{見学者数}}{\text{イベント関連 処理場訪問者数}} \times \frac{\text{下水道処理人口}}{\text{下水道処理人口}}$	%	1.2	1.1	0	0	0	↓	下水道処理場の広報活動の浸透を図る指標。池田市の場合は中小企業年主が主である。 ※池田市独自目標。
	地上権更新率	$\frac{\text{当年度中の更新件数}}{\text{当年度の地上権更新目標件数}}$	%	121	157	135	85.7	115	↓	50年で設定がため、それまでに更新する必要がある。更新件数は、寄付・採掘・土地使役契約の切替え等も含んだ件数。 ※池田市独自目標。
	水処理電力原単位	$\frac{\text{使用電力量}}{\text{全処理水量}}$	kWh/m <sup>3</sup>	0.29	0.31	0.30	0.30	0.33	↑	汚水1m <sup>3</sup> の処理に必要な電力を示し、数値が高いほどエネルギー効率のよい水処理がされている。
【環境】環境にやさしい水づくり・水処理のために	処理人口1人あたり温室効果ガス排出量	$\frac{\text{CO}_2\text{換算排出量}}{\text{下水道処理人口}}$	kg-CO <sub>2</sub> /人	3.24	2.60	2.09	2.19	1.76	↓	経年約な比較により環境負荷削減度が把握できる。
	下水汚泥リサイクル率	$\frac{\text{汚泥の有効利用量}}{\text{発生汚泥量}}$	%	11.44	13.45	32.70	100	97.44	↑	数値の大きさが省資源への寄与度が示される。肥料化・セメント化等を行い、埋立処分は含まない。

※「傾向」は、令和4年度と平成30年度～令和3年度平均を比較した結果。増加(↑)・横ばい(→)・減少(↓)。

**A**  
Always

**【安定】**

いつでも安定した  
水循環を提供するために

**水源の安定性の維持**



大阪広域水道企業団  
の水管橋



余野川取水設備更新工事

**【水道】**

自己保有水源率

84.0%(→)

余野川取水設備更新

工事 1 億 616 万円

池田市では猪名川、余野川及び大阪広域水道企業団水を水源としています。複数の水源を持つことで、災害時などに安定した水道水を供給することができます。

令和 4 年度から、大阪府の余野川河川改修工事に併せて、余野川取水設備および工作物の更新を実施しています。

**漏水防止対策**



路面音聴調査

**【水道】**

漏水率

1.9%(↓)

漏水調査委託業務

1,050 万円

漏水調査から漏水を早期に発見し処理することにより、有収率の向上と道路陥没等の二次災害防止に取り組んでいます。

## 施設の耐震化



水道管の耐震化工事



下水道管の耐震化工事

### 【水道】

管路の耐震管率

17.3%(↑)

管路の更新率

1.30%(↑)

配水管更新工事

5億699万円

### 【下水】

管路耐震化率

10.23%(↑)

管渠の改善率

0.16%(↑)

下水道管更新工事

2億8,551万円

施設の更新、拠点施設の耐震化を行い、災害に強い施設の構築に努めています。

水道事業では、計画的に水道管の更新を行い、更新するすべての管路に耐震化を実施しています。

下水道事業では「池田市下水道総合地震対策計画」に基づき、災害時の指定避難所や市立池田病院および池田市下水処理場を結ぶ重要な管路とマンホールとの接続部の耐震化を実施しています。

## 危機管理体制の充実



送水管の2系統化工事

### 【水道】

給水人口一人当たり

平均断水・濁水時間

0時間(→)

畑配水池送水管2系

統化工事4,237万円

送水管仕切弁設置工

事1,238万円

災害復旧体制の充実を図り、応急給水体制を強化しています。また、飲料水を非常時にも確保できる体制を構築しています。

令和4年度は、既存の送水管が被災した場合に備えて、送水管の2系統化整備工事を実施しています。



【安心】  
健全な水循環を  
保つために

### 給水水質の向上・水質管理体制の充実



水道水の採水・検査

【水道】  
有機物(TOC)濃度水  
質基準比率  
33.3%(↑)  
水質検査機器更新費  
用 54 万円

【水道】  
給水栓水質検査(毎  
日)箇所密度  
59.5 箇所/100km<sup>2</sup>(↓)

安全な水道水を供給するために、水質基準 51 項目の内、48 項目について自己検査体制を整備し、かつ水質検査機器の更新を計画的に進め、水質管理を強化しています。また、水道 GLP の認定を維持し、水質検査について高い信頼性と精度を確保しています。

### 放流先の水質保全



水質検査の様子

【下水】  
法定水質基準遵守率  
100%(→)

【下水】  
下水排除基準に対す  
る適合率(事業場採  
水)  
89.96%(↑)

下水処理場からの放流水については、法令で定められた水質の基準を達成し、放流先の猪名川や大阪湾の水質保全に努めています。また、市内事業所への適切な指導監督を実施し、事業所からの有害物質などの流出を防いでいます。

## 浸水対策の推進



八王寺川バイパス管築造工事



神田地区貯留施設築造工事

### 【下水】

床上浸水対策施設整備率

60%(↑)

雨水排水整備率

40.1%(↑)

雨水管整備工事・八王寺川バイパス管築造工事・神田地区貯留施設築造工事

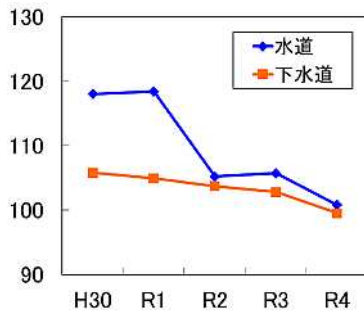
13億1,030万円

10年確率の雨水整備に加え、近年の集中豪雨の増加などにともない、内水氾濫の被害リスクが増大していることから、「下水道床上浸水対策計画」に基づき、城南・神田地区の浸水被害の軽減を図るため、八王寺川バイパス管築造工事及び神田地区貯留施設築造工事を実施しています。



【持続】  
強固な運営基盤を  
維持するために

### 強固な事業経営の確保



経常収支比率の推移

【水道】経常収支比率  
100.8%(↓)

【下水】経常収支比率  
99.5%(↓)

水需要の減少にともない、経常収支比率は低下傾向です。経常収支比率は水道事業・下水道事業の収益性を表す指標であり、100%を下回っている場合は、経常損失が生じていることを示しています。  
令和5年10月に経営戦略を見直し、経営の改善に努めます。

### お客様サービスの充実



水循環と防災展の様子



広報紙「水だより」

【水道】水道施設見学者割合  
0人/1,000人(↓)

【下水】下水道施設見学者割合  
0%(↓)

【水道・下水】広報紙による情報提供度  
4.4部/件(↓)  
263万円

令和3年度に引き続き、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント活動が制限され、水道施設と下水道施設の見学会は実施できませんでしたが、水循環について啓発するイベントを実施しました。  
また、池田市上下水道部では、広報紙「水だより」を発行しており、市民のみなさまに役立つ情報を発信しています。

## 老朽化施設の更新



古江浄水場排煙設備



下水処理場放流ポンプ



下水処理場  
次亜塩素酸ソーダ貯留槽



下水処理場汚泥搬送設備

### 【水道】

管路の耐震管率

17.3%(↑)

管路の更新率

1.30%(↑)

配水管更新工事(再掲)

5億 699 万円

法定耐用年数超過設備率

27.1%(↑)

古江浄水場排煙設備更新

工事 2,576 万円

### 【下水】

管路耐震化率

10.23%(↑)

管渠の改善率

0.16%(↑)

下水道管更新工事(再掲)

2億 8,551 万円

主要設備の経年化率

113.1%(↑)

放流ポンプ機械設備更新

工事 5,450 万円

次亜塩素酸ソーダ貯留槽

設備更新工事

1,800 万円

汚泥搬送設備整備工事

(長寿命化) 1,800 万円

地上権更新率

115%(↑)

地上権更新関連費用

547 万円

池田市では、老朽化が著しく機能に支障をきたす恐れがある施設について、適正な事業規模を勘案しながら、計画的に更新を進めています。

水道事業においては、「上水道施設整備計画」に基づき更新を進めており、古江浄水場の排煙整備の更新を実施しました。

下水道事業においては、「ストックマネジメント計画」に基づき、点検・調査の結果、優先度の高い箇所について更新・長寿命化を進めています。

池田市下水処理場では、放流ポンプや次亜塩素酸ソーダ貯留槽の更新、汚泥搬送設備の長寿命化を実施し、処理機能の確保に努めています。

私道にある下水道管の地上権満了期間は 50 年です。地上権設定の登記をすることで、撤去等の要求が生じても市はこれに対応できる権利を有します。市民が安心して下水道を利用できるよう、新たな設定登記の更新を行っています。



### 資源の有効利用



下水処理場で発生する  
下水汚泥

**【水道】浄水発生土の有効利用率**

74.6%(↑)

**【下水】下水汚泥リサイクル率**

97.44%(↑)

令和 4 年度は浄水発生土・下水汚泥ともにリサイクル率が上昇傾向でした。

これからも環境にできるだけ負荷をかけない上下水道事業の運営に努めます。

### 環境対策



上下水道庁舎の  
太陽光発電システム

**【水道】配水量 1m<sup>3</sup>あたりの電力消費量**

0.56kWh/m<sup>3</sup>(↓)

**【下水】水処理電力原単位**

0.33kWh/m<sup>3</sup>(↑)

**【水道】配水量 1m<sup>3</sup>あたりの CO<sub>2</sub>排出量**

170g・CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>(↓)

**【下水】処理人口 1 人あたりの温室効果ガス排出量**

1.76kg・CO<sub>2</sub>/人(↓)

上下水道事業運営を通じて、多くのエネルギーを消費しています。古江浄水場や下水処理場では使用する電力を最小限に抑え、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

水道・下水道の電力使用量は省エネ機器の導入などにより概ね改善傾向であり、CO<sub>2</sub>の排出量も減少しています。

さらに環境対策として、上下水道庁舎には太陽光発電システムを導入しており、発電した電力は庁舎内で活用しています。

A・Q・U・A Rise

## 美しい水を未来へ

美しい水を未来へつなげていくこと

それがわたしたち池田市上下水道部の使命です

池田市では、早くから水道・下水道の整備に着手し、市民のみなさまとともに上下水道事業を運営してまいりました。

しかし、その早くから整備してきたために施設も老朽化してきており、さらに頻発する自然災害や社会情勢の変化など、乗り越えていかなければならない多くの課題があります。

山積する課題を解決し、安全安心な水道・下水道サービスを将来にわたって途切れることなく継続していく。そして健全な水循環を将来世代にバトンタッチしていく。

池田市上下水道部は、「上下水道ビジョン」に基づき、一步一步確実に事業を進めていきます。

池田市上下水道事業令和4年度決算レポート

(令和5年10月)

池田市上下水道部 経営企画課

〒563-0054 大阪府池田市大和町1番10号

TEL (072)752-1111

FAX (072)751-3852

HP <https://www.city.ikedada.osaka.jp/jogesuido/index.html>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/ikedawater/>